

○内容

放課後等デイサービス自己評価表<事業者向け>に回答し、結果のまとめ、分析を行いました。

○対象

社会福祉法人すずらんの会 発達支援グループぱれっと 職員9名

療育担当職員8名（うち管理者・児童発達支援管理責任者3名）、事務担当職員1名

○実施時期

2022年11月

○結果

番号	チェック項目	はい	どちらとも	いいえ	自由記述	分析
1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	9	0	0		両事業所とも部屋数、面積とも現在のところは十分と考えています。
2	職員の配置数は適切であるか	4	4	1	事務が2事業所で一人なので忙しそう。事務職員が勤務している日は大変助かっている。 ニーズにこたえきれていない。 事務職員不在の際は協力して窓口対応を行っている。	配置基準順守した職員数を配置していますが、余裕があるとは言い難い状況です。特に、事務職員が常にいる状況ではないため、窓口対応で利用者さんをお待たせしたりご不便をおかけすることがあります。また、定員や職員数の関係から、ニーズ通りにご予約をとれない状況です。
3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮がてきせつになされているか	9	0	0		ぱれっとやまとの階段については見守りが必要ですが、ぱれっとやまと1階とぱれっとについてはバリアフリー化しています。
4	業務改善をすすめるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）	9	0	0		基本方針が法人から示されたり、幹部会議で案を練ってから全体会議にはかることもありますが、基本

	に、広く職員が参画しているか					的に何事も全体で話し合っていて決めています。
5	保護者向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	9	0	0		人数が多く、皆さまに納得していただける方法を見つけしていくことは大変難しいですが、検討を続けていきます。
6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	9	0	0		ホームページと事業所内掲示にて公開します。
7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	3	5	1	法人職員（他事業所）、第三者委員などによる評価は実施しているが、オンブズマンなど外部評価は受けていない。	会計処理については、会計事務所のチェックを受けています。また、法人内委員会により、虐待防止や安全衛生に関しての内部評価が定期的に行われています。法人の方針もあり、サービスに関する第三者評価は実施していません。
8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	9	0	0	内部の新人研修、外部研修の機会は充実している。	研修は積極的な参加を奨励しています。十分ということはありませんので、さらに参加を促進します。
9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	9	0	0		ぱれっとの療育の基本スタイルです。
10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	9	0	0	複数のツールを子どもに合わせて使用している。	お子さんによってどのツールを使用するか検討し、複数のツールを組み合わせ多角的にアセスメントしています。
11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	9	0	0	ケース会議の時間を積極的に設けている。	個別療育についても、支援方針などをチームで考えていくことが望ましいのですが、時間的な制約もあり、担当中心に立案しています。ケース会議の時間確保など課題はありますが、真のチーム支援を目指していきたいと思えます。
12	活動プログラムが固定化しないよう	9	0	0	ケース会議等で他視点の取入れを行って	お子さん一人一人にオーダーメイドのプログラムを

	工夫しているか				る。	考えています。 お子さんによっては、ある程度固定化した方が安定した取り組みが可能となる場合もあります。
13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	6	3	0	時期にかかわらずそのお子さんに必要な課題設定を行っている。	基本的には長期休みも療育を実施する方針は変わりませんが、お子さんの様子や生活の変化に対応していきたいと思います。
14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成しているか	9	0	0		個別と小集団療育の両方に参加しているお子さんについては、必ず両方の目標を支援計画に盛り込んでいます。
15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	9	0	0	グループ指導の前に打ち合わせを実施している。	個別療育についてもできるだけ職員間で情報を共有していくことが課題です。日々よく話をするようにしています。
16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	9	0	0	時間不足は否めない。	お子さん一人一人の様子について、できるだけ情報共有していくことが課題です。
17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	9	0	0		記録は正確に迅速に。努力しています。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	9	0	0		長くても半年ごと、お子さんの変化が大きい場合は必要な時期にモニタリング、計画の見直しを行っています。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っているか	7	2	0		放課後長い時間を過ごすデイサービスとは、活動内容がやや異なっていますが、参考にできる部分はしています。
20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通	9	0	0		相談支援事業所の担当者会議には、担当者を中心に、ふさわしい者が参加しています。

	した最もふさわしい者が参画しているか					
21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	7	2	0	必要に応じて支援に関する情報共有を行っている。 ノートや電話等で連絡をとりあっている。	送迎を実施していないので、送迎にまつわる連絡調整はありません。お子さんに関わることや行事などについては、電話やノート、実際の行き来などで連携しています。
22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	1	7	1	現在対象のお子さんが在籍していない。必要な場合は体制を整える。 機会がないが、必要に応じて連絡をとるようになっている。 医療的ケア時の在籍がない。	現在は医療的ケアの該当児はいません。今後受け入れの際には保護者を通じて連携し、支援にあたっていくことになると思います。
23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	8	1	0	必要な場合行っている。	児童発達支援事業も実施しているため、就学前から必要に応じて連携しています。
24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	9	0	0	療育のまとめを作成している。	申し送り書を作成しています。必要に応じて、直接担当者とお会いして情報提供することもあります。
25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	7	2	0		必要に応じて適宜連携させていただいています。
26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会はあるか	0	0	9	ぱれっと内では機会を設けられていない。	今のところそのような機会は作っていません。
27	（地域自立支援）協議会等へ積極的	8	1	0		地域の協議会や事業所連絡会議には必ず参加してい

	に参加しているか					ます。参加した際には、職員へ報告し、情報共有するようにしています。
28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解をもっているか	9	0	0		親御さんとは毎回面談の時間をとらせていただき、常に共通理解をもちながら支援にあたっています。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	8	1	0	適宜相談に乗ったりより良い対応についての助言を行っている。 ケースごとの必要性によって行うこともある。	必要に応じて個別の面談の中で実施しています。
30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	9	0	0		契約時、また、必要に応じてできる限りご説明しています。
31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	9	0	0		毎回の面談時に、日常生活のこと、悩みなどできるだけいろいろお聞かせいただきたいと思います。必要に応じて、保護者だけの面談を設定することもあります。
32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	0	6	3	あえて設けていないが、待合で保護者同士が情報共有している。	通所しているお子さんのタイプや年齢が多岐にわたるため、全体としての保護者会は現実的ではありません。グループ療育の機会を活用したり、必要に応じてご紹介したりしています。
33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	9	0	0		法人としての苦情解決システムがあります。
34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	9	0	0		年2、3回ぱれっと新聞を発行しています。広報すずらんは年4回発行されています。どちらも郵送でご家庭にお届けしています。

	か					
35	個人情報に十分注意しているか	9	0	0		注意しており、郵便物発送のときなどはWチェックを行うようにしています。ヒューマンエラーは起こりうるものですので、油断せず注意していきます。
36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	9	0	0		コミュニケーション支援は私たちの仕事の本質的な部分だと思っています。
37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	5	4	0	法人内の行事として実施している。 コロナ禍のため難しい。	法人として実施しています。法人の行事や地域での活動にばれっとのスタッフも参加しています。
38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	9	0	0		全てのマニュアルは既にあり、職員にも周知しています。
39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	9	0	0	子どもも含めた訓練も実施したい。現在は予約の関係で難しい。	避難訓練（年2回）、食料などの備蓄などしています。避難訓練に多くのお子さんに参加していただくことが現実的に難しいのが課題です。
40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	9	0	0		地域の研修会について、職員全員に情報提供しています。法人内の虐待防止委員会が中心となり、研修やセルフチェック、利用者聴き取り調査などを行っています。
41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	5	4	0	基本的に身体拘束はしていない。	保護者も一緒に通所していただきますし、現在のところ身体拘束を計画するようなことはありません。法人として、身体拘束を行う場合の話し合いの記録、説明し了承を得るための書式などは整備されており、職員にも周知しています。
42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	5	4	0	食べ物を扱うときには事前に保護者にアレルギーの有無を確認している。	食事やおやつなどを食べる機会があるときには、事前にアレルギーの有無を保護者に確認しています。

43	ヒヤリハット事例集を作成して事業 所内で共有しているか	7	2	0	発生する度に共有している。 法人で共有している。	法人から報告されるものをその都度共有していま す。
----	--------------------------------	---	---	---	-----------------------------	------------------------------

○まとめ

1年前に実施した同じ自己評価とほぼ同様の結果でした。依然として課題としてあがる部分は、根幹にかかわるものやすぐに変えられないハード面に关わる内容が多く、簡単に改善されないということが言えると思います。ソフト面については、引き続き情報共有を徹底し、広い視野で様々な情報を取り入れていきたいと思ひます。虐待や身体拘束に関する職員の意識は向上していることが窺えます。世の中の流れや法人の方針などを周知し、さらに意識を高めていきたいと思ひます。

できる限り複数のスタッフで情報共有し、支援方針を検討していく姿勢が求められています。グループ療育は日常的に複数のスタッフが関与して実施されていますが、個別療育に関しては全ケース丁寧に情報共有することが難しいです。しかし、職員が毎日顔を合わせ、できる限り情報を共有するよう意識しています。会議の時間を増やすなどハード面の整備を待つよりも、一人一人の職員が意識的に日々のお子さんの様子を発信することが、一つの解決策となっています。担当以外のスタッフも、ほぼ全員で一人一人のお子さんの状況を共有しています。真のチーム支援の実現を目指して努力を続けていきます。